

八雲・春の風物詩全面中止



「小型」
配布

「暗い雰囲気拭って」

それでも町に こいのぼりを

今春開催予定だった同町の春の風物詩「八雲ゆう遊 こいのぼり」が新型コロナウイルスの影響で中止になった。一度途切れ、町出身者による町おこし団体「八雲ゆう人会」（石原泰仁会長、15人）が復活さ

霧囲気を拭おうと町内に小型こいのぼりを配布し、ウイルス終息後に住民の家に飾ってもらうことを検討する。
（中島諒）

八雲町内の店舗 事業所に飾られて
いるこいのぼり。松江市八雲町東岩



松江市八雲町の意宇川の上に掲げられたこいのぼり（2019年4月、資料）

19日から5月16日にかけて、町を流れる意宇川に2〜5坪のこいのぼり1300匹を泳がせる予定だった。しかし、9日に松江市内で感染者が確認されたため、関連イベントを含め全面的に中止した。

小型こいのぼりは約50坪。紙芝居作家・よしとさん（松江市在住）がデザ

里」の主導で、サンノミコトを模様を描いた力強い仕上げになっている。

もともとは意宇川に掲揚したこいのぼりとともに町全体を彩ろうと4月頭に100匹を製作し、町内の店舗や事業所30カ所に向けては10日に配り始め、飾られてもいる。

「掲揚を中止しても八雲を『こいのぼりの町』として盛り上げたかった」と配布理由を振り返る石原会長。ウイルスの終息を機に、住民の家々にも配って飾ってもらう計画だが、時期を見通せず、実現はいつになるか分からない。それでも、中止を告知した後に「来年を楽しみにしている」「頑張ってほしい」との応援の声を受け、活動の励みにしている。

町内ではイベントの協賛団体が、天気の良い日にかやぶき交流館（同町平原）と、志多備神社（同西岩坂）付近に数匹のこいのぼりを掲揚し、各店舗の小型こいのぼりと合わせて町を彩っている。

石原会長は「来年にしっかりと再開するためにも、今はこいのぼりを見て皆さんの張り詰めた気持ちと和らげばうれしい」と願った。